

第8回瑞浪市総合計画審議会 会議録

日時：令和5年5月30日（火）13:30～15:05

場所：瑞浪市保健センター3階大会議室

次 第

1. 会長あいさつ
2. 副会長選出
3. 議事
 - (1) 第7回瑞浪市総合計画審議会会議録について 資料1
 - (2) 第7回瑞浪市総合計画審議会議題に対するご意見と回答について 資料2
 - (3) 第7回瑞浪市総合計画基本構想について
 - ①第7次瑞浪市総合計画・基本構想(案)パブリックコメント結果について 資料3-1
 - ②第7次瑞浪市総合計画・基本構想(案)に対するご意見と市の考え方 資料3-2
 - ③第7次瑞浪市総合計画 基本構想(案)について 資料3-3
4. その他

出席者

出席委員

鈴木圭子 委員 大山理晴 委員 小島博和 委員 滝本一司 委員 早瀬邦夫 委員
勝股清治 委員 山口富子 委員 中林京子 委員 岩島 敬 委員 中山千鶴 委員
小池 誠 委員 萩尾英明 委員 稲垣昌克 委員 土屋誠治 委員 威知謙豪 委員
大宮康一 委員 森島嘉人 委員 東恵理子 委員 小木曾めぐみ 委員 玉川幸枝 委員
[名簿順]

欠席委員

安藤八重子 委員 林 一子 委員 熊澤清和 委員 林 雪華 委員
[名簿順]

【瑞浪市】

瑞浪市理事兼総務部長 正村 和英

【事務局】

加藤 昇 (企画政策課長)
津田 良介 (企画政策課企画政策係長)
三浦 啓輔 (企画政策課企画政策係)

【第7次瑞浪市総合計画策定業務委託事業者】

本間 裕之（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所）

【事務局】

これより第8回瑞浪市総合計画審議会を開催する。ご多忙の折、ご出席いただき感謝申し上げます。私は市企画政策課企画政策課長の加藤である。会議の冒頭は事務局側で進行させていただきます。

委員の交代について報告する。市連合自治会の推薦で委嘱した水野委員が3月31日で辞任となり、今回から早瀬氏が委員となる。

また中京学院大学から推薦で委嘱した古田氏の辞任に伴い、今回から林氏が新たに委員となるが、本日は欠席である。

審議会を進める。本会議の公開を了承していただく。レジメに従い会議を進める。会長からあいさつをお願いします。

1. 会長あいさつ

【会 長】

前回の第7回審議会では、第7次瑞浪市総合計画基本構想骨子案に対する意見と回答、基本構想案、パブリックコメント実施要項について事務局から説明があり、議論していただいた。今回は前回審議会の議題に対する意見と、それに対する回答、第7次瑞浪市総合計画基本構想におけるパブリックコメントの結果と、それを踏まえた基本構想案について、忌憚のない活発な意見交換の場となるよう進行していくので協力をお願いします。

【事務局】

本日の会議資料は、事前配布のほか、机上に計9種類の資料がある。

以後の進行は会長をお願いします。

2. 副会長選出

【会 長】

本審議会の出席状況を報告する。審議会の委員総数24名のうち20名が出席している。瑞浪市総合計画審議会設置条例第6条第2項に定める要件で、過半数の出席を満たしており、審議会の成立を報告する。

副会長の選出について諮りたい。水野副会長の辞任により、規定に基づき副会長を選出したい。委員の互選となっているが、いかがだろうか。

（会長一任の声）

会長案での提案を頂いたが、よろしいだろうか。

(異議なし)

副会長に市連合自治会の早瀬氏にお願いしたいが、いかがだろうか。

(拍手で承認)

早瀬氏が副会長に選出された。早瀬副会長にあいさつをお願いする。

【副会長】

構想がかなり出来上がったところに、私のような新参者が入って何ができるか心配であるが、選ばれた以上全力を尽くしたいと思っている。ご協力をよろしくお願いする。

3. 議 事

【会 長】

手元のレジメに沿って進行を進める。

(1) 第7回瑞浪市総合計画審議会会議録について事務局より説明をお願いする。

(1) 第7回瑞浪市総合計画審議会会議録について

【事務局】

資料1 3月27日開催の第7回瑞浪市総合計画審議会会議録の案である。委員の承認後、市ホームページで公表する。発言した委員の名前は記載せず、「委員」と表記している。

【会 長】

第7回審議会の会議録について質問・意見等はないか。自身の発言でニュアンス、趣旨などに相違があれば指摘していただきたい。

意見がなければ、第7回瑞浪市総合計画審議会会議録案については確定とし公表させていただく。

続いて、(2) 第7回瑞浪市総合計画審議会議題に対するご意見と回答について、事務局より説明をお願いする。

(2) 第7回瑞浪市総合計画審議会議題に対するご意見と回答について

【事務局】

資料2 前回の審議会にて、基本構想案、基本計画の骨子案についてご審議を頂いた。また、審議会後に頂いた意見があり、回答とともにまとめ報告する。

1番の意見は人口のグラフについてである。縦軸はゼロからスタートするように修正する必要があるとのことだった。グラフは1、17 ページにあるが、縦軸がゼロからスタートしない場合、グラフの角度が急になるなど、見る人に誤認を招く可能性があるため、いずれのグラフも縦軸がゼロからスタートするように修正する。

2番の意見は、「定住人口の増加」は極めて重要なため、項目として追加すべきであり、その中で「地域人材づくり」と表現すべきというものであった。

「地域人材づくり」については重要課題と認識し、基本構想案の中でも、「シティプロモーション」で「定住人口の増加」、また「協働のまちづくり」では「地域活動を担う人材・団体の育成」として記載し、「文化・芸術・文化財」や「商業」の分野でも人材育成を記載している。基本計画は、基本構想を具体化する内容のため、記載方法をさらに検討していく。

3番の意見は、「2. 社会潮流」と「3. 本市の今後の方向性」の記載内容が似ているため、それぞれの項目の下に、「どの基本計画もしくは具体施策の部分に当たるかを書けば、具体的に見えると思う」との指摘だった。これについて、社会潮流を踏まえて市の方向性を示すため、具体的な表現が多用されること、具体的取組は基本計画または実施計画に記載することを理解していただきたい。「3. 本市の今後の方向性」に記載する項目は、基本計画または実施計画のどの分野に該当する方向性なのか明確に区分できるものは少なく、分野横断的な方向性を示すものが多い。関連性を記載することで伝わりにくくなる可能性を懸念している。基本構想での「3. 本市の今後の方向性」では、記載のような方向性であることや、こうした視点で考える必要があることを述べるにとどめたい。

4番については、前回の審議会で「総合計画に市独自の特色が薄い」との意見があった。「国や県の指針に沿って計画を立てる必要性は理解するが、市独自の特色を伝えるためにビジョンブックで特色を反映するような画像の選択が重要」との指摘だった。ビジョンブックの写真選定は、各ページに記載する内容に応じた写真選び基本となるが、市内で開かれるイベントなどの写真を盛り込み、特色を伝えられるように選定作業を進めている。

5番から7番は、基本計画骨子案についての意見で、骨子案自体を修正するかどうかでなく、意見を踏まえて基本計画案を策定していくので理解をいただきたい。

5番の意見は、「協働の推進」でも、「他の関係団体との協働についても付け加えていいと感じた」、6番では、「課題を明記してほしい。KPIの設定のため、課題と課題の数値化は必ず行い、明記してほしい」、7番では重点施策について、「『子育て支援』『シティプロモーション』『地域人材づくり』としてはどうか」との指摘があった。

基本計画では、指標の設定を行い、具体的な数値を用いて事実と根拠に基づく施策・事業を展開できるように計画の策定を進める。「地域人材づくり」を重点施策に位置づけるかどうかは検討中だが、持続可能なまちづくりを進める上で重要なことは明記したい。

【会 長】

貴重な意見に対して適切な回答を頂いた。説明に対して意見、コメント等あれば願います。

基本構想と具体的となる基本計画の違いをあらためて簡単に説明していただくと、事務局の回答をより理解しやすい。

【事務局】

基本構想、基本計画、実施計画の3つを総称して総合計画としている。基本構想は期間

10年間の展望を見て、目指すべき市の方向性や姿、そのための考え方を示して概要を示す。基本構想の実現に向けた基本となる施策の目標を基本計画で示していきたい。実施計画では、基本計画に位置づけた施策をさらに具体化する個別事業を位置づけていく。

基本構想は少し抽象的なところもあるかもしれないが、頂いた意見は、基本計画、実施計画に位置づけていきたい。

【会 長】

これまでの説明をあらためて確認ということで質問した。普遍的な大きな概念から実施計画の実施に向けて、より具体的なものに段階を経て取り組んでいるということである。委員から頂いた指摘内容はすべて構想に反映されるというよりも、場合によって基本計画、実施計画に反映されるので、いろいろと検討していきたい。

質問、意見等はないか。意見がなければこの内容で確定し、今回の回答で了承を頂き次に進む。

続いて、(3)第7次瑞浪市総合計画基本構想についてである。①第7次瑞浪市総合計画・基本構想(案)パブリックコメント結果についてから③第7次瑞浪市総合計画 基本構想(案)についてまで、一括して事務局より説明を願う。

(3) 第7回瑞浪市総合計画基本構想について

①第7次瑞浪市総合計画・基本構想(案)パブリックコメント結果について

【事務局】

資料3-1 パブリックコメント結果について報告する。募集期間は令和5年4月3日から5月2日までで、市役所や各コミュニティーセンター窓口、市ホームページ、広報などで周知し、市企画政策課への持参や郵送、オンラインフォームなどで意見を頂いた。

ホームページのアクセスは152件あり、市内在住4名から計13件の意見があった。

②第7次瑞浪市総合計画・基本構想(案)に対するご意見と市の考え方

資料3-2 13件の意見について説明する。

1番の意見は、「総合計画が市民一人一人に意識できるものにしてほしい、市民が参加できる総合計画にしてほしい」というものだった。総合計画が市民全体にかかわる計画でありながら、認知度が低いことを踏まえ、「ミズナミライ」というフレーズやデザイン、のぼり旗、缶バッジなどを作成して関係者やワークショップ等に参加した市民に配布して策定段階からPRしてきた。総合計画の策定に向け、地域懇談会や市長と語る会などで市民の意見を聞いた。今後も市民の声に耳を傾け対応したい。

2番の意見は、「発見されたパレオパラドキシアの化石を生かしたものを総合計画に盛り込んでほしい」との内容だった。化石については市の魅力ある資源の1つとして、市内外に情報発信しPRに努める。化石を生かした取り組みは基本計画に位置づけることで検討したい。

3番の意見は、「自動運転などのシステムを取り入れた交通網を普及させるよう総合計画に盛り込んでほしい」というものである。市も自動運転技術を活用し地域の公共交通の課題を解決できないか検討し、情報を収集している。公共交通の分野で「先進技術の活用」との文言の記載を加え、基本計画や実施計画で検討をさらに進めたい。

4番は、市民のニーズや不満、市の魅力や将来像の要望の記載後に目指すビジョンの記載を求める意見があった。第7次瑞浪市総合計画では、「ビジョンブック」をビジュアル性の高い冊子として作成する。これまでの議論にあったように、結論を先に述べ、背景の社会潮流や課題、今後の方向性を後段に資料編として簡潔に記載する構成としている。

5番は、税収増が大切でその記述の必要性や、アミューズメント施設の企業誘致、情報発信など具体提案があった。税収増については、今後策定する基本計画で市の財政推計を示して計画の実効性を補完する予定であり、その中で税収等の記載もしていく。具体的な施策提案に対しては、基本計画、実施計画で具体化していく形で検討を進める。

6番は、「アンケートやワークショップの情報が総合計画に記載され分かりやすい」との他市の例を引き合いに掲載を求める意見があった。市の考え方としては意見の4番のとおり、「ビジョンブック」の形で簡潔に記載する方針である。これまでの意見聴取の内容をまとめたものなど、基本計画に付属する形で進めたい。

7番は、オンラインフォームへの誘導が分かりにくいとの意見だった。オンラインフォームは、パブリックコメントの意見聴取で今回初めて採用したが、リンクの貼り方等については意見を踏まえ改善を図りたい。

8番の意見では、釜戸町はJRの駅もあるが、若者が離れ、高齢者が町を守っている現状のため、道の駅の盛り上げを期待するというものだった。道の駅については、令和5年4月に「瑞浪市道の駅基本計画」を策定し、住民の居場所としての拠点、観光の玄関口の役割を担う施設として整備している。この計画を起爆剤に交流人口の増加や地域活性化を図り、人口減少に歯止めがかかるよう事業を推進していきたい。

9番の意見では、人口フレームの目標が34,000人であれば、その数字を掲げることがなぜ将来都市像の実現につながるかという道理を市民、市職員が理解し、指針となる記載を望むとした。土地利用の方向性では、この基本方針、ゾーン、エリアの設定が「幸せ実感都市みずなみ〜いっしょに創ろう夢ある未来〜」の将来都市像にどういう理屈で貢献していくのかが読み取れないとし、瑞浪駅や瑞浪恵那道路、道の駅などの拠点を将来都市像の実現にどうつなげていくのか方向性の提示を求めるものだった。

11番の意見にも類似した部分があり、併せて回答する。

人口の人数設定の背景に、人口フレームを長期的に示した人口ビジョンを基本構想案の17ページにも記載しているが、合計特殊出生率が2.07にまで回復・上昇することで2100年ごろ人口の下げ止まりと安定推移が見込まれることを見据えている。34,000人は、計画終了時の令和15年の目標値を国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研。）の推計値31,659人に比べ2,000人高く設定した目標である。計画期間での子育て世帯を中心に移住・定住施策効果で達成を図り、人口が減少していく中でも活力の維持・向上につながるものである。

土地利用の方向性は、瑞浪駅周辺再開発事業や道の駅整備事業などで整備される施設を

拠点としたまちづくりが展開されることを期待している。このほか、瑞浪恵那道路や東濃西部都市間連絡道路などのインフラ整備で交流人口や関係人口の増加などが期待され、活性化につながり、より幸せを感じられるまちを目指す。これらの大規模事業は自治体の力だけでは実現できず、協働の精神のもと、地域が一体となり築き上げるものと考えている。サブタイトルに思いを込めている。

10番は、将来都市像の実現度合いを検証する指標の設定を求める意見である。「どういう状態になれば、将来都市像の実現に近づいたか認められるかの評価軸の設定は、将来都市像のイメージを市全体で共有するためにも、各施策の優先順位決めや改廃時の指針とする上でも有用」と指摘している。第6次瑞浪市総合計画の進捗状況評価でも、コロナ禍の影響で数値が急激に変化し、思うように指標を測ることができなかったことが背景にある。基本計画で設定する社会情勢に合わせた柔軟な指標を達成することで、基本構想に掲げる将来都市像の達成につながると考えている。

12番の意見は、土地利用の方向性の詳細についての意見である。

①では、地図上でJR釜戸駅周辺が交流拠点に含まれていないとの意見だったため、含む形で図を修正する。

②の意見は、これらの拠点の利活用や整備の方向性が読み取れないとの指摘である。拠点名称だけでなく、文面で方向性を明記する形にしたい。

③の意見は、計画期間中の建設が考えられる五月橋や東濃西部都市間連絡道路の開通なども記載し、こうしたインフラ整備の効果を地域に波及させる方向性を示してほしいとの意見だった。大規模事業についての記載は、基本計画の中で考えている。

④の意見は、第6次瑞浪市総合計画にあった軸の設定について、「広域連携軸」「交流軸」くらいは設定しておくのが望ましいとの指摘だった。第6次瑞浪市総合計画では、「広域骨格軸」「都市骨格軸」「交流軸」「親水空間活用軸」の4つを設定し、それぞれ市内外の広域的交流や市内交通を処理する幹線道路を位置づけ、自然と歴史を活用した交流、憩いの場、健康づくり場に適した環境を示した。これらの軸の位置づけを省いても、市内外や地域間の連携・交流を図るためのインフラや地域資源の役割があることは明確なため、軸の設定は省いている。

13番の意見は、「第7次瑞浪市総合計画策定方針には『瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略、瑞浪市行政改革大綱については、基本構想の中で見直しを行い』と書いてあるが、総合戦略については最終ページに記載はあるが、行政改革大綱については該当するような記載がない」というものだった。総合戦略は、国のまち・ひと・しごと創生法が上位法となり、この文言を用いて分かるように記載している。行政改革大綱は市民サービスの向上などを目的に進める内容を示しており、文言にとらわれる必要がなく、硬い表現は避けている。案の中の、まちづくり基本方針5「持続可能なまちづくり」の行財政運営の項目に含まれ、行政改革大綱の理念と同様の内容を含んでいる。

③第7次瑞浪市総合計画 基本構想（案）について

資料 3-3 総合計画審議会の事後意見とパブリックコメントの意見を踏まえ、基本構想(案)で修正した点を報告する。

1 ページだが、グラフの縦軸をゼロからの表記にしている。17 ページのグラフも同様である。

2 ページの「(3)拠点」とあるが、パブリックコメントの 12 番の意見を踏まえ、各拠点に方向性を文章で記載した。3 ページの地図は机上配布した物が最新のもとして理解していただきたい。前回資料は囲みが甘かったため、釜戸駅周辺を、駅を含め交流拠点として囲み修正した。また地図には「新五月橋」の名称を記載した。新丸山ダム建設に伴い新しい橋に架け替わるためである。八百津町から交流人口の入り出があり、その活用の思いを踏まえ名称のみを記載した。南北の道路も併せて記載した。

8 ページの下にある「(5)公共交通」の項目で、「先進技術の活用を視野に入れながら」との文面を加えた。

以上が総合計画審議会の事後意見とパブリックコメントの意見を踏まえた修正である。

また、庁内会議などでパブリックコメント結果を報告した中で行った細かな修正について報告する。

1 ページの人口フレームの文末に、「令和 15(2033)年度末における人口は 34,000 人程度を目指します。」としているが、前回の資料では「持続可能な目標として 34,000 人程度を掲げます。」としていた。これについては、審議会の意見もあり、持続可能なという文言を加えた経緯があるが、34,000 人という目標が、確実に持続可能と位置づけまでの意味合いではなく、社人研の推計では、31,000 人台にまで落ち込む人口をこの 10 年間で 34,000 人にまで引き上げたいという考えである。

審議会での意見として、『「幸せに暮らしていける」ということが一言あれば、読み手の不安感もなくなると思う」との意見を頂いていた。1 ページの将来都市像の項目で「幸せを実感できる持続可能なまちを目指します。」との文言や「2. 人口フレーム」の文面でも「市の活力を維持・向上させるべく、各種施策に取り組み」と記載しており、市を守り、さらに向上を目指すための状況は伝わると考えている。

2 ページ目の各ゾーンの説明について、「住居ゾーン」の中で「環境の創出」を「環境の維持・創出」に変更した。「工業・産業ゾーン」でも「環境の創出」を「環境の維持・創出」とした。創出の意味として、現状が良くない状況であるため今後創出すると捉えられかねないとの意見を踏まえ、「維持」の文言を加えた。「農業ゾーン」では、「暮らしに適した」という文言があるが、「農業と暮らしに適した」と修正し、「農業ゾーン」を言う記載であるため、意味合いを明確にした。

以上、修正した点をすべて報告した。

【会 長】

説明に対して、質問、意見等はあるか。

【委 員】

「4. 活気みなぎるまちづくり」に「(6)市民生活」が入っている。それぞれの説明を

読み比べると、市民生活は、「5. 持続可能なまちづくり」か「3. 生涯活躍のまちづくり」の説明がしっくりくるように思うが、説明を頂きたい。

「3. 生涯活躍のまちづくり」の中の「(2)健康・医療」の文中に「広域連携のもと、医療環境の充実を図ります」とあるが、若い世代の定住・移住を進める観点からも、「広域連携のもと」という言い方はどうかと思う。東濃厚生病院と土岐市立総合病院が合併し、大きな病院として便利な医療環境になると思うが、移住・定住を望んで瑞浪市に来る人は事前に瑞浪市が作成したものを読み調べてからくるが、大きな病院が市内にはなく、土岐市にあることを知るようになる。

もう1つは、若い世代の子育て支援についてである。子どもが瑞浪で生まれてほしいとの希望を持っているが、市内に産科医院が1つもない。以前は病院も入れて4カ所ほどの産科医院があった。現在、東濃地区にもほとんど見られない。私の娘も里帰り出産で病院探しに苦労した。知らない人が安心安全な出産をし、子育てをするとなると、地理的には新しい病院で十分だが、感情的には市内で産み育て、診察を受けたいのが人情である。

「(2)健康・医療」で「広域連携のもと」という文言を入れると、土岐市に病院があるため、瑞浪市に産科医院は誘致しないと答えることも簡単にできる。そういうことを考える余地を残すために「広域連携のもと」という文言を考えてほしい。

【事務局】

1点目の、「4. 活気みなぎるまちづくり」の方針に「(6)市民生活」を位置づけたのは、消費者保護などの面を入れていきたいと考えている。現状でも消費生活相談や講座を開催している。また市民生活には雇用対策も位置づけていきたい。第6次瑞浪市総合計画以降も継続が求められ、産業面が強い方針になることからここに位置づけた。市民相談など細かな全体的な話はそれぞれに分散して位置づけていきたい。

「3. 生涯活躍のまちづくり」の広域連携だが、市長が社会潮流の変化の中で大きな決断をした事業の1つである。人口減少の中で、瑞浪市、土岐市にそれぞれ病院が1つという体制を維持できればいいが、共倒れを避け、JA ぎふ厚生連と瑞浪市、土岐市で協議した結果、土岐市肥田町に病院を建設することになり現在、造成工事が進んでいる。

人口減少が大きく影響しているが、人が暮らす中で持続可能性が重要となり、統合することで医療提供体制の維持を考えている。1つの行政サービスを各市で個別に受けることが変化してきており、「広域連携」という言葉を入れている。

産科医院についても以前は3、4軒あったが現在ゼロの状況である。多治見市に県病院を含め2つ、恵那市の市民病院に1つある。産科は他科に比べリスクが高く、医師の間でも産科を志望する人が少なく、これまで行ってきた産科医師の誘致がかなわない状況になってきた。東濃中部病院には産科の医師を誘致したいと両市の市長が努力している。

2000年が瑞浪市の人口のピークで42,000人を数えた。過去の総合計画は、人口増加の中での計画だった。しかし、少子化の中でも行政として維持していかなければならず、表現的には「広域」というものを入れておかないと、瑞浪市単独での産科医師の誘致は難しいため、言葉としてはこのまま残しておきたい。委員の発言はもっともであるがご理解を頂きたい。

【理事兼総務部長】

委員の指摘は「のもと」という限定したものが良くないのではないかという発言かとも思ったが、いかがだろうか。市内にも産科医院ができるような余地を残しておけばどうかという意見とも思ったが、その理解でよろしいだろうか。

【委員】

おっしゃる通り、広域は広域で市民が安心して医療にかかることができる体制づくりは当然であるが、市民から将来、市内における産科医院の要望は出てくると思う。その辺の選択の余地も残しておくには、「広域連携」の4文字がネックとなり、「広域連携でやっているから、そういうことはやらない」と言われるとそれまでになってしまう。そういう含みもあるとの認識でやっていただくといいと思う。

【事務局】

広域連携が主になるので、外すことは難しい。「医療環境の充実を図ります」と続けるつながりの工夫を検討できないかと思う。この点は宿題にさせていただきたい。

【会長】

個人的には、広域連携にだけ基づいた展開ではなく、「広域連携を視野に入れつつ」「広域連携を踏まえつつ」という意味合いで、瑞浪市独自の体制も実現可能な表現にさせていただきたいとの意見ではないかと解釈した。また、指摘があったように、広域連携は大切にするが、市内独自の取り組みもあると解釈ができる表現にしていただければいいと思う。

ほかに質問、意見はないか。

【委員】

基本構想1ページ目の「幸せ実感都市みずなみ」の下に、「10年後瑞浪市は、みんなの笑顔があふれています。」との記載があるが、そう思わない人も多々いるのではないか。第6次瑞浪市総合計画の計画中に子育ての環境が厳しくなっていることを経験した子育て世代からは、「みんなの笑顔があふれる」というイメージが湧かないといった辛辣な意見も聞く。「みんなの笑顔があふれるように、取り組みます、またはがんばりましょう」などにしたほうが反発する人の話もマイルドになるのではないかと感じた。

2ページの「3. 土地利用の方向性」の(1)基本方針に「各地域の魅力ある恵まれた資源を活用し」とあるが、移住してきた人にとって、そもそも市内の各地域が分からない。地区名などを入れて具体的に紹介してはどうか。

【会長】

ただいまの指摘に対して、事務局より回答をお願いします。

【事務局】

指摘にあったように、「取り組みます」などの言い方も検討した。しかし、その表現は行政主体のイメージとなってしまうため、市民と行政みんなが同じ方向に向かっていることがわかる表現がいいのではないかと考えた。ただ指摘されたように気になる面もあるため、表現について検討したい。

瑞浪市を知らない外部の人が見た場合、どういう資源があるのか分からないとの指摘だが、審議会だけでなく、そういった意見を頂いているため検討したい。

基本計画を示していく中で、まちづくりの基本方針にもある協働のまちづくりや地区名は明確に分かるようなものも検討している。全部網羅できるか分からないが、各地区の資源についてある程度は明確に示していきたい。

【会 長】

「10年後のみんな笑顔があふれています」といった断定表現の可否について、「あふれている」と将来がしっかりと見えるビジョンを示す表現は、個人的にはいいと思う。

これまで経験した方による厳しい意見については当然反省すべき点と思うので、それを踏まえて今回の計画に生かすには貴重な意見だと思った。

【委 員】

基本構想1ページの人口フレームの図が見にくいところがあり、上部で推移しているのであれば、下の部分は割愛するグラフの形でいいのではないかと。

17ページには、平成22年から令和42年までの数値があり、人口は下がるが、施策で押し上げるという矢印があり、努力やビジョンの意味合いは分かりやすいと思う。可能であれば、令和15年の31,659人を34,106人に上げるところが分かればいいと思った。また、施策によって2,000人が増えるのであれば、その根拠を記載してほしい。

パブリックコメントが4人の13件は少ないと思った。パブリックコメント数について、10人、100人などの目標数値があったと思う。次にどう生かすか考えてほしい。

意見が13件あれば、回答内容を変えて書くなど考慮してほしい。

【事務局】

グラフの縦軸目盛りで約28,000人を一番下に置き、2,000人単位で区切り傾きが分かる表現はよく見られている。危機感を分かりやすく伝える観点から見せ方の提案をした背景がある。

意見にあった「ゼロから」については指摘を受けてきており、選択肢として複数あるとの認識がある。ゼロをベースにするのは学術的には基本で指摘通りだが、何を伝えたいかという点と学術的なところとの相談になると解釈している。

2点目はどの程度の人口変動があるかとの意見だったと思うが、基本構想をシンプルに仕上げたいところから、人口の目標設定を示すことにとどめた。今後、人口減少対策や地域活性化の取り組みについて位置づける基本計画の中で、人口について掘り下げて記載していきたい。

3点目の人口が34,106人へ2,000人引き上げた理由についても、基本計画で説明できれ

ばと考えている。

パブリックコメントの回答数については、前回の10年前はアクセス数が292件で、意見提出が10名で、意見数は13件と同じだった。当時、基本計画に位置づける内容が多かった印象である。10年前の第6次瑞浪市総合計画策定時よりもワークショップや意見収集ボードなど、前回なかった試みなどを通じ多くの市民に知ってもらうよう行っている。妥当とは言わないが、より多くの意見をいろいろな形で収集してきた。今後、広く周知できる方法を探っていきたい。

パブリックコメントに対する回答は、市がこれまで行ってきた他のパブリックコメントと同様な表現をしてきたが、全体的に統一し、変更できるならば変えていきたい。

各委員からの意見は持ち帰り、人口フレームの図や広域連携の表現、地域の表し方などは十分検討し、見やすい形で基本構想を示していきたい。

【会 長】

検討をお願いします。

1、17ページのグラフについては見やすさを大切にしてほしい。ゼロから始めることは学術的な話以前の基本であり、委員の指摘はもっともである。そこをどう工夫し書くのかについて議論していただき、また中間的な数値をどう端折るかは表現法の問題になる。

パブリックコメントの件数の少なさは、市の一方的な責任というよりは市民の関心の問題が反映されている。まちがどう変わっていくか、委員の皆さんには周りを巻き込む形で市民らに周知していただくことも、市にはできない方法ではないかと思っている。アクセスの少なさだけでなく、市民の関心度を意識すべきと感じている。今後、市と市民が協働していい計画を作っていく気持ちを持っていく必要がある。

他にあれば、質問等を受け付けるが、用紙で個別に事務局に出していただいても結構である。

【委 員】

パブリックコメントの提出件数が少なかったのが残念だった。パブリックコメントの提出方法は、今回初めてオンラインを活用したものとなったが、見たところ分かりにくさを感じ、提出方法も複雑に感じた。市のツイッターも見ているが、SNSでパブリックコメント実施に関する発信が見られなかった。ツイッターやインスタグラムなどもあるので、市民の意見を頂く工夫をしてほしかった。

【事務局】

市の情報発信が不得手なことはたびたび申し上げているが、第7次瑞浪市総合計画でも情報発信を強化していきたい。広い世代に届くように、紙・電子などいろいろな媒体を活用して、意見を反映できるようにしていきたい。

【会 長】

貴重な意見でとても重要なことだと思う。市の広報のあり方に事情があり、広報で SNS

などにアップする手続きが大変なところがあるのではないかと思う。

【事務局】

SNS を導入してタイムリーな情報を発信できる強みがあることが分かった。広報では月 1 回しか発行できず、出したい情報をタイムリーに出せないところがあり、それを補完する形で SNS が有効であることが分かった。ただ、SNS を活用しているのは主に若者世代でありご高齢の方に広く浸透していない部分もあるため、広報でどのように情報発信していくか検討している。情報発信に長けた人を招いて市の課題を洗い出しながら取り組んでいこうと考えている。

【会 長】

活発な意見、指摘があった。今回示された基本構想案については、指摘のあった点について事務局から検討するとのことだったので、審議会の議論を踏まえて可能なところは修正していただき、それ以外の点は基本計画、実施計画に反映する流れで再度検討していただけたらと思う。

この原案を基本に修正を反映していく形で進めていきたいが、よろしいだろうか。

(「異議なし」の声)

長時間にわたり活発な意見を出していただいた。

これもって第 8 回瑞浪市総合計画審議会の議事を終了する。

副会長から一言お願いします。

【副会長】

真剣な意見を聞かせていただき感銘した。これはコンセプトプランであるが、自身も厳しい意見を持っている。次の基本計画、実施計画に期待したい。

【会長】

今後の厳しい意見をよろしくお願いします。

進行を事務局にお返しする。

4. その他

【事務局】

令和 6 年 4 月 1 日市制 70 周年を迎える。これに関連し SNS を活用して実施する記念イベント、「あなたの写真とメッセージで瑞浪市制 70 周年までカウントダウン」は、市制施行記念日 70 日前から市公式 SNS に投稿させていただき取り組みである。応募枠にまだ空きがあり、知人らに声掛けしていく中で応募を検討していただきたい。

今回の審議会は活発な議論をしていただいた。この場の議論で意見を言い切れていなかったり、提案があれば配布した用紙やメールなどで 6 月 6 日までに事務局まで知らせてい

ただきたい。その後基本構想をまとめつつ、基本計画の策定作業に入っていきたい。
次回審議会の開催は7月下旬を予定している。各委員と調整した後お知らせしたい。
長時間にわたりありがとうございました。これで第8回瑞浪市総合計画審議会を閉会する。

以上